

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2673200263
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム京田辺
所在地	〒610-0032 京都府京田辺市興戸郡塚57-3 (電話) 0774-68-1266

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年11月20日	評価確定日	平成22年1月4日

【情報提供票より】(平成21年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	470 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,670 円	

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	82 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寺島クリニック せきにし歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、同志社のキャンパスが間近に見え、田舎の風情を残しつつも、学生のためのモダンなマンションがあるなど新しい景観が展開される地にあります。ホームでは出来る限り利用者の意向の尊重を心がけ、思いに心を合わせることで利用者の安心に繋げた支援を行っており、ホーム内は利用者の穏やかな表情と温かい雰囲気があります。また、地域との関係では、道で出会う人には当たり前のように挨拶がなされ、近所の方から農作物の差し入れがあり、多くのボランティアが訪れ、楽しさと生きがい作りになるなど心地よい人と人との関わりが育まれています。ホームでは年に一度近所の方を招待するお祭りを企画し、利用者職員が共に準備し、年々参加者が増え夏の地域行事として定着してきています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善点は特には無かったが、職員間で評価内容を職員会議で話し合い検討されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解しており、全職員で取り組む姿勢で項目を分担して記入を行い、管理者がまとめて完成させています。改善点を見つけ、取り組んでいきたい項目を検討し課題に掲げ取り組みを展開する予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、民生委員、地域包括支援センター職員が出席し、2ヶ月に1度運営推進会議を開催しています。全家族に呼び掛け参加を募り、欠席家族には議事の報告を行い、情報を共有するとともに関心を喚起しています。ホームの行事やホームの状況を伝え、民生委員や地域包括支援センター職員からは地域の情報を頂き、活発な意見交換を行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	法人の満足度調査を年2回行い、アンケートの結果や意見を基に検討を行っています。出された意見を家族に返すとともに改善点への検討を行い支援に結び付けています。また、家族の来訪時には意見や要望を云いやすいように配慮しつつ、何でも言える関係であるよう努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	道で出会う人には当たり前のように挨拶がなされ、犬の散歩で出会った方とは犬を交えた交流になったり、心地よい人の関わりが育まれています。また近所の方から農作物の差し入れがあり食卓をにぎわし、多くのボランティアが訪れ、楽しさと生きがい作りになっています。ホームでは年に一度近所の方を招待するお祭りを企画し、利用者職員が共に準備し、年々参加者が増え地域の行事として定着してきています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもとに、「楽しく共に支え合いいきる」ことを職員で考えホーム理念として定めている。職員間のみならず地域に向けても共に支え合う精神で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆で考える中で出来上がった理念であり、職員は意識して日々の支援を行っている。また、法人の理念や介護指針と共にホーム理念を掲示し、意識を喚起している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々と道で会えば挨拶し、犬の散歩をされている方との出会いは、犬を含めた交流となっている。ホームの畑もあるが近隣の方々から収穫のおすそわけも度々ある。ホームでは夏祭りを開催し、近隣の住人に声を掛け出し物を企画する事で年々参加者が増えて行き、地域の中では夏の定着行事としての認識になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価に当って、職員で手分けした評価を基に管理者がまとめて作成している。職員からの意見や感想の中から改善課題を掲げ出来るところから取り組む意向である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、地域包括支援センター職員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1度行っている。家族に呼び掛け参加を募り、欠席家族には議事の報告を行い、情報を共有するとともに関心を喚起している。ホームの行事や状況を伝え、民生委員や地域包括支援センター職員からは地域の情報を頂き、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催でグループホーム会議が2ヶ月に1度行われており、市職員や地域包括支援職員が交代で会議に参加されており、共にサービスや運営への努力がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月医療情報や介護チェックシートなど法人独自の書式で家族に健康や医療面の報告を行っている。また季刊の便りを作り、多くの写真をのせ利用者の様子や職員の異動も合わせて伝えている。金銭管理は預かり金対応を行い毎月出納帳のコピーを送り報告を行っている。	○	健康状態はじめ、日々の状況も家族に伝え、季刊のお便りも発行されていますが、季刊のお便りに利用者ごとのコメントを載せることで、家族のさらなる喜びに繋がるのではないのでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人のアンケートが年2回利用者家族と職員も含めて行われており、出された意見を家族にも返すとともに改善点の検討を行い支援に結び付けている。また、日常的にも家族の来訪時には要望や意見を聞きだすように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は自己申告の提出や、面談の中で希望や意見を言うことができるシステムがあり、離職に繋がらないように配慮している。新任の職員に対しては利用者とのコミュニケーションを優先し、ベテランについては日勤を中心に勤務を重ね馴染みの関係作りに力を入れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人の研修計画を受け、ホームでは極力受講できる体制を作っている。法人は専門分野でプロジェクトチームを作りサービスの標準化に取り組み、今年度は特に口腔ケアや介護技術者育成に力を入れており、管理者はじめ職員が受講し、サービスの質の向上への取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催するグループホーム間の交流会が2ヶ月に1度行われている。また京都府のグループホーム協議会でのネットワークでも参加したホームとの関わりの中で多くを学ぶ機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には自宅への訪問を重ねたり、見学に来てもらいお茶を共にするなど入居への意向を確かめている。入居後は利用者の思いに心をあわせ穏やかな状況作りに努める事で安心に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴に裏打ちされた日々の生活や調理等へのアドバイスで職員は多くを学ぶ機会となっている。職員は昔話を聞きその時代の出来事を知り、利用者の時々思いや苦楽に寄り添っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用者によって必要な部分を使い分け利用している。日々の会話をから汲み取って、記録したり追記する中で利用者の思いが十分把握できるように努め、利用者本位の支援に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に職員に紙面で意見を収集し評価した上で、計画作成担当者が原案を立て、カンファレンスを行ってまとめている。利用者家族にも記入シートを配布し、意見を聞くようにしている。看護師や医師の意見も反映し総合的な支援体制となるようなケアプランを立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始後は暫定の計画を立て1ヶ月3ヶ月でプランの見直しを行い、変化がなければ6ヶ月ごとの見直しとしている。フォーマットへの工夫を行い、日々の支援がプラン通りに行えるようにする事で、職員のケアプランへの理解が深まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の思いの実現に努めており、欲しいものがある時等には買い物に職員と共に出かけている。福祉用具への対応など関連する介護事業への取次を行い、また「京都検定」を受けたい利用者と共に職員も勉強し受験にチャレンジするなど、利用者の要望の実現に力を注いでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向に沿ってかかりつけ医が決められており、専門的な治療が必要になった時には、家族との話し合いで、医師から他の医療機関への紹介が行なわれている。訪問看護や協力医からの訪問診療、歯科衛生士や歯科医の往診も含めて充実した医療の関わりが構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の看取りの方針をもとに、条件が整えばホームとして看取りを行う姿勢にある。職員は研修も受けており医療の関わりの中での対応が可能である。家族の意向を聞く中で協力体制なども含め、選択肢を示し選んでいただく方向で考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、申し送り時にインシヤルで行うなど特に注意をしいる。日常的な対応については利用者への声かけなどでは無理強いしない事を徹底し、プライドを傷つけないように配慮している。職員は研修を行い、個人情報の取り扱いについても全職員が理解するとともに、書類も適切な保管と取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時や就寝時も利用者個々に合わせた支援を行っているが、時には声かけを行い大きな時間のずれがないように配慮している。利用者の生活習慣の尊重でそれぞれのペースに応じた時間の経過があるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人ばかりが手伝うようにならないように、できない人への役割を見つけ、多くの関わりで食事の準備が行われている。職員と利用者は、語り合いながら食べる事を楽しまれており、積み重ねの中で穏やかな雰囲気が増えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望に合わせて入浴支援をしているが、少なくとも週3~4回は入浴して頂けるように配慮している。拒否傾向の方には職員が入れ替わったり、声かけに工夫をし入浴に繋げている。現在利用者は一般浴での入浴が可能であるが、重度化に伴って浴室の設備や入浴の体制について検討するつもりである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花やアコーディオン、腹話術等多くのボランティアを依頼し、気晴らしや楽しみ事を企画している。日常生活では役割を持って何かをして頂けるようにし、来客時にはお茶出し接待を役割にされていたり、男性利用者には行事での挨拶など皆の前に立つ機会を作ったりするなど生き生きとした生活に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ベンチでの日光浴や散歩など、季節を感じられるように支援している。近くの神社や近隣にある大学のキャンパスや宇治に方面に向け出かけたり、春にはバスでお花見に、秋には外食へと季節毎のお出かけ、利用者的一声で車を出してのドライブになったり、出歩く機会を多く支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせずに玄関は解放されている。リビングに続く玄関はどこからもよく見え開放的な作りになっており、外に出かける利用者がおられても、職員はそれとなく付き添い自由な行動への対応を行っている。職員は拘束や鍵を掛ける事の弊害を理解しており、研修も繰り返し行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもとに、利用者も混じっての訓練を行い、またホーム独自でも昼間を想定した訓練を行っている。運営推進会議でも呼びかけているが、参加に繋がらなかった。今後継続した呼びかけを行う意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、水分摂取量の少ない利用者にはチェック表で確認している。献立は、利用者の要望を聞きながら作成しているが、野菜を多く取るように心がけ、豊富な食材を利用して作られている。味わい評価の機会を兼ねて運営推進会議でも食事会を行う予定である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々季節が感じられるよう、職員と利用者の作品や楽しかった思い出の写真が飾られている。リビングではテーブルを囲んだりソファでくつろいだり様々なスタイルで利用者は過ごしておられ、畳のコーナーではミニの茶箆筒やテーブルが懐かしい雰囲気を出し、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの居室がほとんどで、クローゼットか押し入れがついている。押し入れに襖がある事で居室が我が家の意識に繋がり、落ち着きに貢献している。比較的シンプルな居室の方が多いが、家を処分されて多くの家財道具を持ち込まれていたり、椅子や、箆筒、テレビの持参も見られ使い慣れた家具で安心できる生活に繋がっている。		